

第2回日中薬局方(生薬等)検討会 報告会

2018年1月22日(月)、
東京八重洲ホールにおいて
「第2回日中薬局方(生薬等)検討会」(以下、検討会)の
報告会が行われた。

2017年11月に開催された検討会の趣旨に賛同し、
寄付を行った日漢協を含む5団体と19社を対象に、
開催されたものであった。

[【関連記事】](#)

当日は、大雪の予報どおり、開場前に降り出した悪天候にもかかわらず、
会場は満席であった。

はじめに、検討会実行委員会の武田修己委員長が、
歓迎会と検討会および情報交換会の様子について、
スナップ写真を交えながら報告した。

歓迎会の和やかなムードが紹介され、
検討会の参加者は中国側が中国薬典委員会メンバー9名、
日本側が厚労省および医薬品医療機器総合機構(PMDA)から4名、
PMDA生薬等委員会専門委員13名、準委員13名であり、
実りの多い検討会であったことが報告された。

最後に、制作した検討会の報告書を示し、御礼のことばで結んだ。



【武田 修己 委員長】



【報告書】

続いて、国立衛研生薬部長の袴塚高志先生が、検討会の実施報告を行った。

まず、検討会設立の経緯と目的について、中国中医科学院院長で天津中医薬大学学長の張伯礼先生と合意した内容を説明した。両国の伝統薬はルーツが同じであっても、現在はそれぞれの医療体系の中で独自に使用されているので、それぞれの立場を尊重しながら情報交換をするということが基本で、統一することが目的ではないということであった。

今回の検討会のテーマは、

- ①局方原案審議に関わる組織
- ②局方原案審議の過程
- ③現行の薬局方(薬典)における最新のトピックスが選定されていた。



【袴塚 高志 先生】

①②については、日本側は袴塚先生、そして中国側は国家薬典委員会の銭忠直先生の説明があり、銭先生は習近平国家主席の発言も引用した内容であったことが紹介され、これらを踏まえ袴塚先生から、両国の局方原案審議に関わる組織や制度の違いについて報告があった。



③の「現行の薬局方における最新のトピックス」について、
中国側の北京大学薬学院天然薬物化学部主任である
屠鵬飛先生の発表を踏まえて、薬局方の発展段階を説明した。

- ・「偽物との鑑別」
- ・「安全性を保証するための検査」
- ・「品質確保のための試験法」

中国薬典委員会は「偽物との鑑別」にも
重点を置いているという特徴を報告した。



【高尾 正樹委員】

日本側の「現行の薬局方における最新のトピックス」として、
日本薬局方原案検討委員会生薬等委員会の高尾正樹委員が
検討会で発表した
『収載品目グリチルリチン酸定量法と規格の改正について』を、
この報告会においても発表した。

その後、袴塚先生と高尾委員が会場からの質疑に対応し報告会は終了した。



最後に、袴塚先生が閉会の挨拶として、
今後のスケジュールを示し、
この検討会は引き続きクローズドで開催し、
並行して技術交流会や学術大会を実施したいと語った。
そして、張先生が紹介した
「水を飲むときは井戸を掘った人の恩を忘れてはならない」という
中国の故事成語を取り上げ
「地を固めた人々に感謝しつつ、今後も発展できるよう努力したい」と締められた。